

編集後記

風薫るさわやかな季節となりました。4月から生活環境や職場環境が変わられた方も、そろそろ新しい環境に慣れた頃ではないかと思えます。4月は、通勤列車が一年の中で最も混雑するよう感じられます。単に乗客数が多いだけでなく、駅構内や車内の勝手がわからず戸惑う人が多いことも理由に挙げられます。資料コーナーで紹介されている「快適性・安心性評価指標」を基に、皆様が利用されている公共交通機関を評価してみても如何でしょうか。

混雑緩和や乗客の安全性・利便性・快適性向上などのために、鉄道事業者は長期的に種々の取り組みを行っています。ところが、これらの成果が一般に認識され、評価されることは少ないように思えます。いつもと少し視点を変えて、1年前の状況を思い出しながら評価をしてみると、何か改善されていませんか。この評価指標は新たに制定されたものであり、定量的な年度推移を知るにはもう少し年月が必要です。しかしながら、鉄道事業者の取り組みと成果を正当に評価するものとして、意義深いものと思えます。計算機ネットワークの維持管理でも、電子メー

ルは「送れて当然、止まればすかたん⁽¹⁾」などと言われま。エネルギー・運輸・通信など、社会基盤として不可欠なものになればなるほど、利用者からの評価が同様の傾向を示すようです。当然と思われている状況の維持、認識されにくい箇所での改善の努力などが、正しく評価されるような社会になればと思います。

さて、既にご案内の通り、8月末に福井大学にて産業応用部門大会が開催されます。講演申し込みはお済みでしょうか。部門大会に関する種々の情報は、産業応用部門のホームページ (<http://www.iee.or.jp/ias/>) の「産業応用部門大会」をご参照下さい。多くの皆様のご講演・ご参加をお願い申し上げます。開催地である福井県に関する情報は、必要に応じて福井県産業労働部のページ (<http://www.fukue.com/>) などをご覧下さい。部門大会が皆様にとって有益なものになることを祈念いたします。

最後に、本号の作成にご協力くださった皆様に厚く御礼申し上げます。

(1) 岡山・片山・坂下, 「ドン!ときたら困るけど, ネットワーク管理 5」, UNIX MAGAZINE, Vol.8, No.9, pp.20-37, (1993.9)

エディタ 市川 修 (職業能力開発総合大学校)

6月号特集論文「モーションコントロールとその計測・センサ」予告

モーションコントロールと計測・センサ応用に関する要素技術は、メカトロニクスや計測制御システムに対して極めて重要であり、それらの技術動向を明確にすることは学界・産業界にとって意義が深いものがあります。

平成16年3月10日、11日に開催された産業計測制御研究会では、「モーションコントロール、計測・センサ応用全般」なるテーマの下、46件に及ぶ最新の研究成果が口頭発表・質疑応答されました。平成17年6月号では、これらの発表論文やその発展論文を含む、モーションコントロール及び計測・センサ応用に関する最新かつ実用性の高い研究論文を特集して掲載いたします。

なお、本特集号のゲストエディタは村上俊之先生(慶応大)です。この場を借りてお礼申し上げます。